

研究公正の取り組みの 現状とその限界

大阪大学全学教育推進機構

中村征樹

簡単なプロフィール

- 一般財団法人公正研究推進協会(APRIN) 理事
- 文部科学省 公正な研究活動の推進に関する有識者会議委員
- 日本学術振興会 研究公正アドバイザー

これまでの関連委員等

- 文部科学省「研究活動の不正行為への対応のガイドライン」の見直し・運用改善等に関する協力者会議委員
- 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会委員
- APRIN研究倫理e-learning教材作成協力
- 複数の研究不正調査委員会委員等

研究公正の取り組みの現状

未来工学研究所「我が国の研究倫理教育等に関する 実態調査・分析業務 報告書」
(令和3年3月)より

(研究倫理教育の受講状況)

「2015～2019年度に研究倫理教育を受講した研究者は95%、学生は84%であり、2019年度に受講した研究者は69%、学生は54%であり、受講していない研究者は5%、学生は16%である。」

(報告書概要、p. 5)

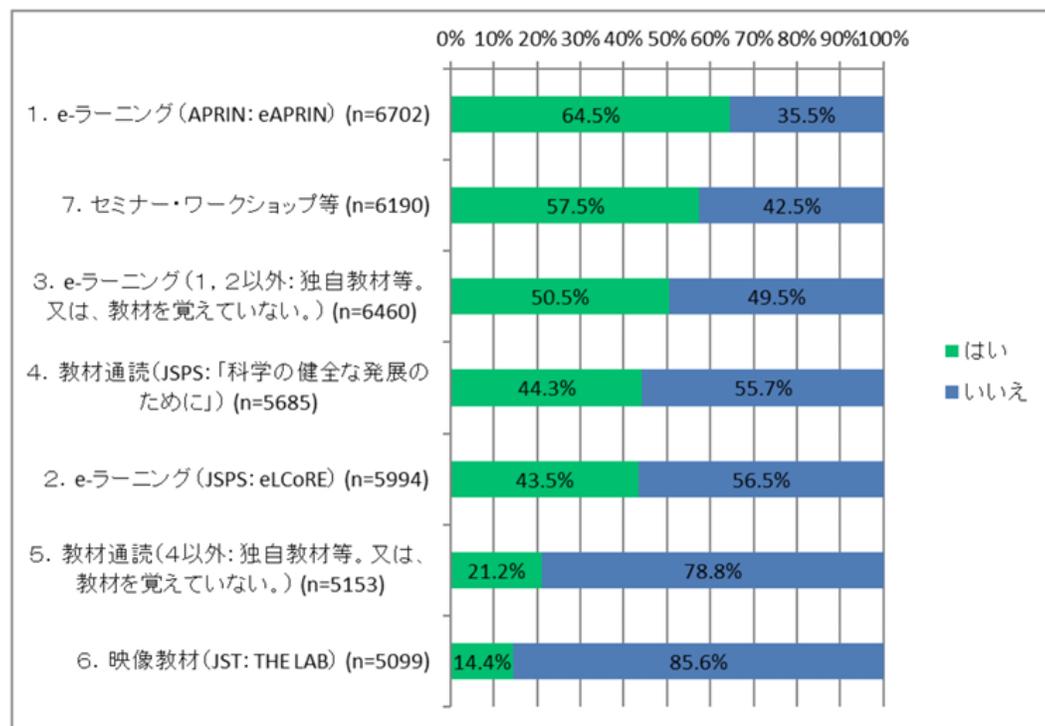
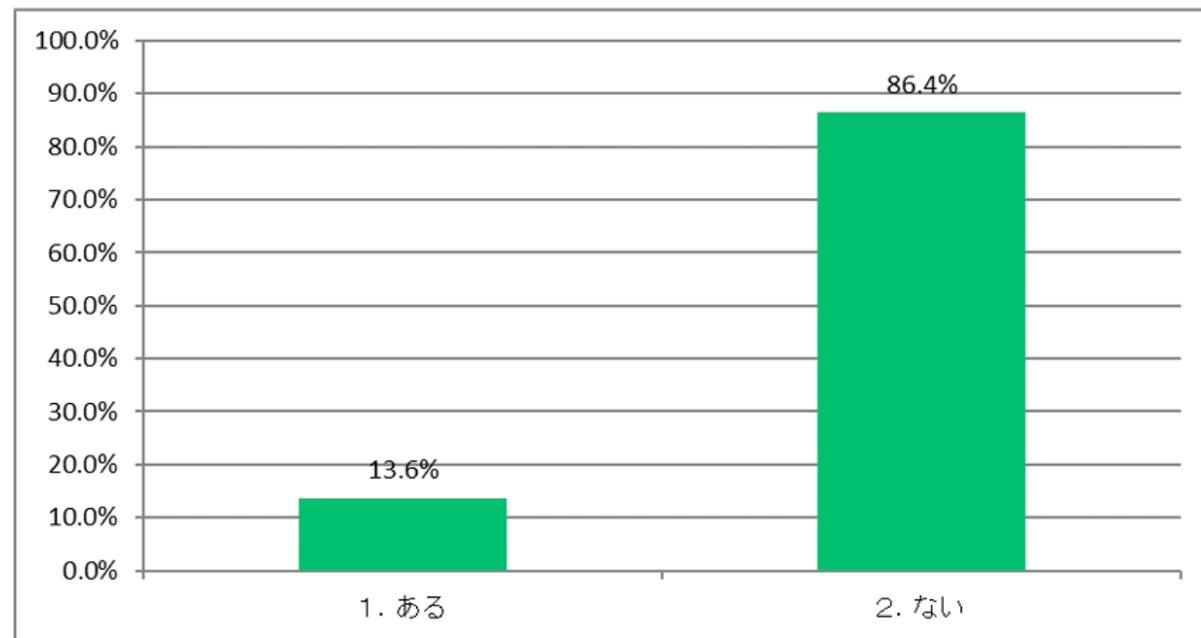


図 2-50 : アンケート結果 (研究者) : 研究倫理教育の受講方法



注) n=9857

図 2-52 : アンケート結果 (研究者) : 双方向型の研究倫理教育の受講

研究公正の取り組みの現状

未来工学研究所「我が国の研究倫理教育等に関する 実態調査・分析業務 報告書」
(令和3年3月)より

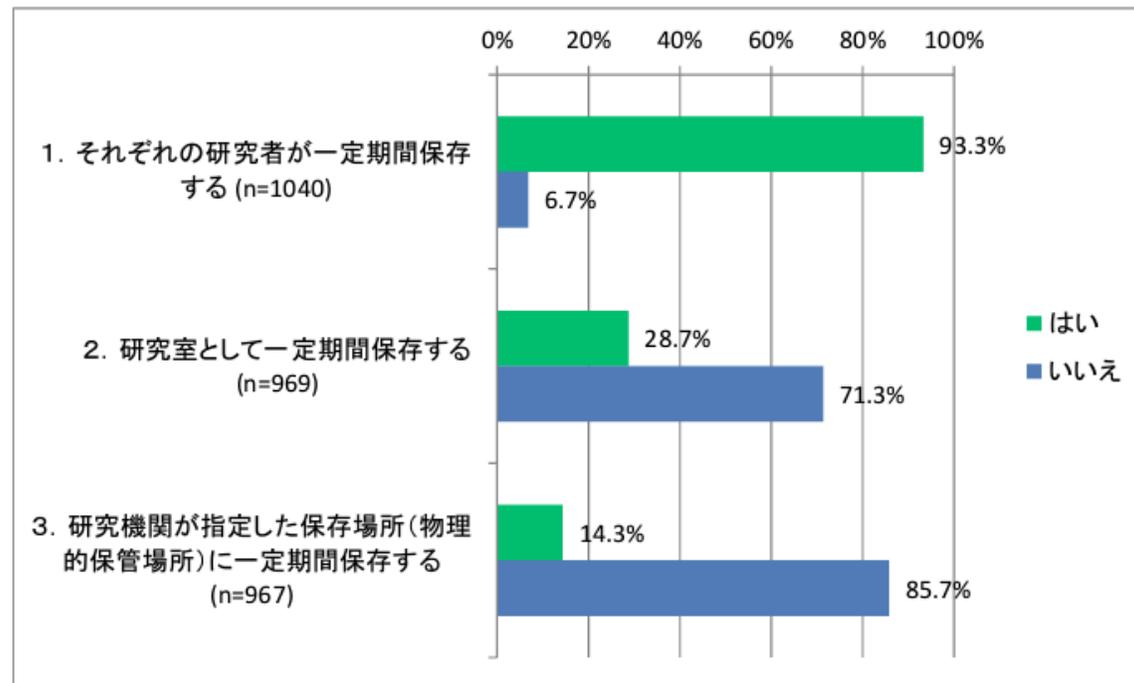
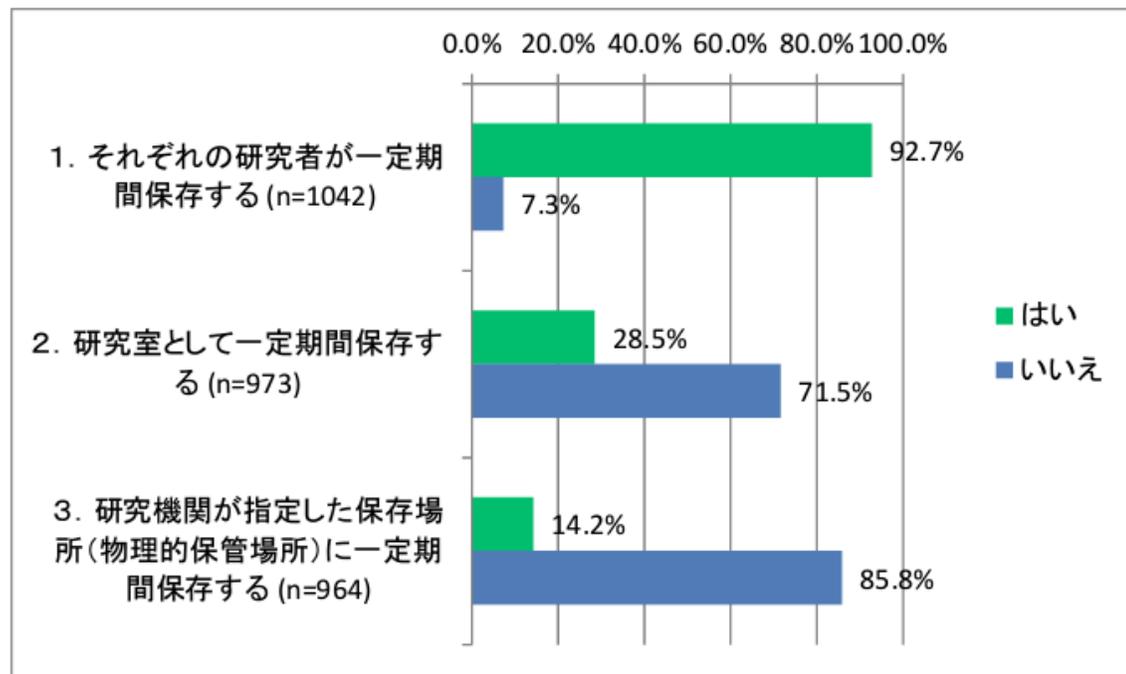
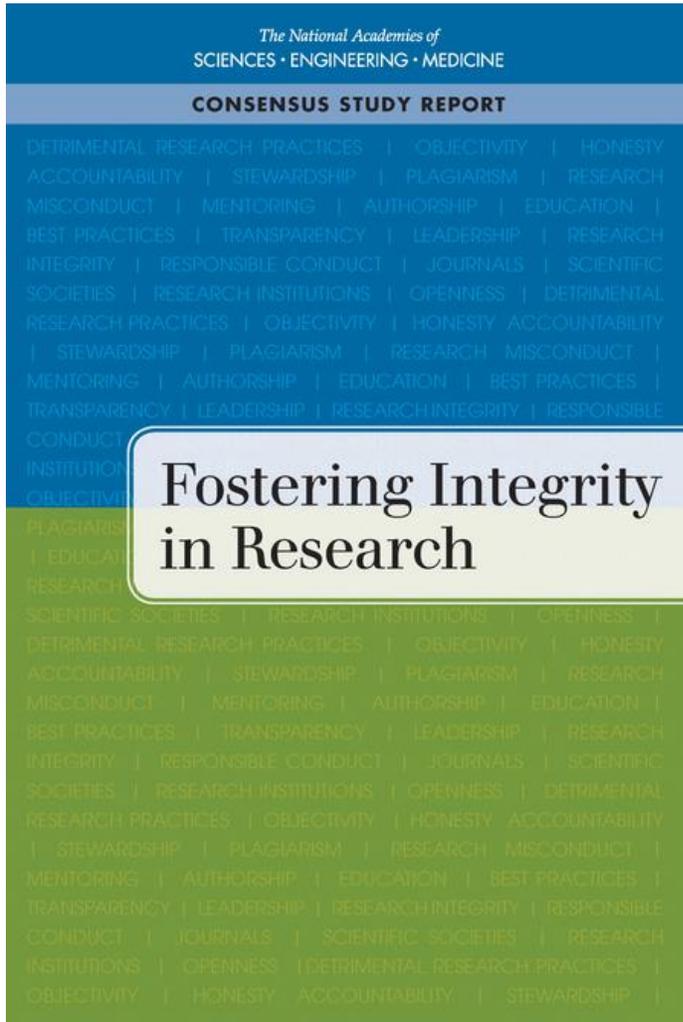


図 2-31 : アンケート結果 (研究機関) : 研究データの保管方法 (紙媒体の資料) 図 2-32 : アンケート結果 (研究機関) : 研究データの保管方法 (電子データ)

研究公正の推進にむけた課題



- 研究機関の重要な責務
 - i. 研究公正を育む**研究文化**の創造・維持
 - 研究倫理教育など
 - ii. **研究環境**の公正性のモニタリング
 - 組織研究環境調査(SORC)
 - iii. **研究不正**の告発に効果的に対応できるようにすること
 - iv. **シニア**が上述の任務を積極的にリードし関与すること

研究倫理教育は責任ある行為を保証するための全面的解決策とみなすことはできない。**包括的アプローチのなかの一構成要素**とみなされるべきである。

研究公正の推進にむけた課題

PwCコンサルティング合同会社「諸外国の研究公正の推進に関する調査・分析業務 成果報告書」（平成31年3月）より

我が国の研究公正/不正対応の質の向上に向けて

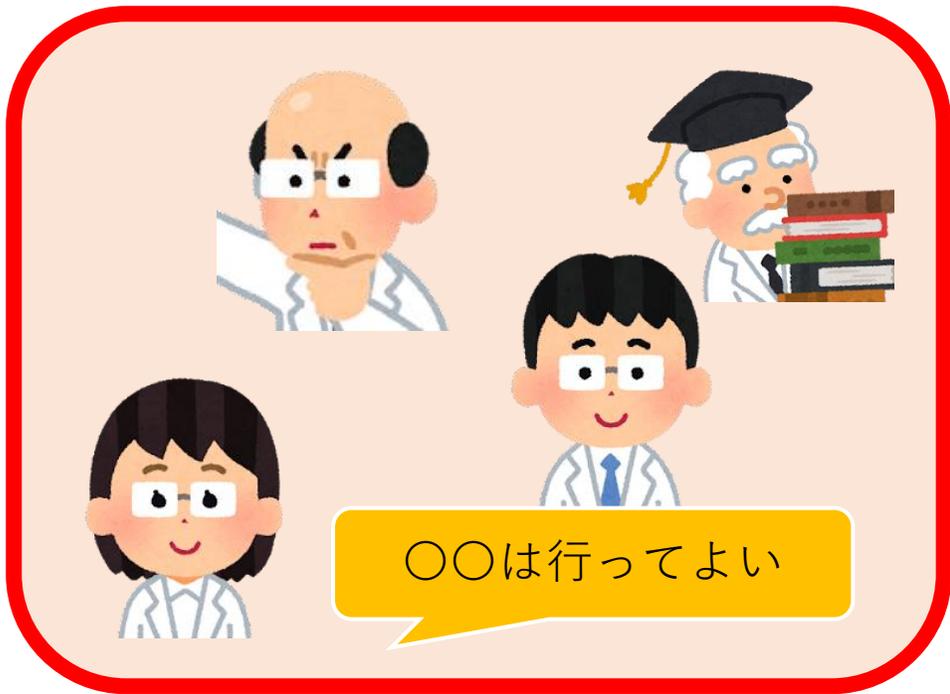
- 論点1 研究機関の研究不正対応の標準化
- 論点2 研究公正にかかる知見・ノウハウや情報の蓄積
- 論点3 国内の研究公正に携わる人材のネットワーク構築
- 論点4 研究公正にかかる人材の育成
- 論点5 「コンプライアンス戦略」としての研究公正から「インテグリティ戦略」としての研究公正へ

**研究分野の多様性を踏まえた
研究公正規範の明確化と共有**

研究公正規範の理想



研究公正規範の現実



具体的にどのような行為が不正か、
不適切な行為であるかが明確



〇〇は行ってはダメ

二重投稿
不適切な
オーサーシップ
盗用
利益相反
...



具体的にどのような行為が不正か、
不適切な行為であるかが不明確



〇〇は問題ない！
(間違った認識)



学会によって異なる二重投稿の判断基準＝研究公正規範

	人工知能学会	原子力学会	日本地質学会	日本人間工学会
学会・研究会、国際会議等において配布される論文集	○	○	○	?
各学会・学術誌がこのような研究公正規範を明文化することが理想				
上記がウェブにて公開されている場合	○	△ (「Webサイトに公表された論文・報告書等は、印刷媒体による公表と同様に扱われます」)	△ (「国際会議の口頭発表論文(extended abstract)・プレプリントサーバー等に掲載済みでないこと」)	?
プレプリントサーバーへの掲載	○	○ (「Preprint ServerはSelf-Archiving方法の1つであり出版とは見なされないため投稿は可能」)	×	?
国際会議のプロシーディング	○	△ (「論文または報告書等の全容がWeb等により公表されている場合」)	△ (同上)	×
社内報掲載論文	○ (「大学や企業のテクニカルレポート」)	×	—	?
典拠	人工知能学会 論文誌 原稿執筆案内	日本原子力学会編集委員会 「二重投稿に関するQ&A」	地質学雑誌投稿編集出版規則	『人間工学』誌投稿規定

仮説

研究公正規範は学問分野に依存する
(同じ分野であれば同様な研究公正規範が共有されている)

目標

各分野について、研究公正規範を明確にする

- 学協会の作成した執筆要領・関連文書の収集・分析
- 編集委員の研究公正規範に関する認識の調査・分析



なぜ編集委員に注目するのか

編集委員は学術誌における
gate keeperとしての役割を
担っているため

海外ジャーナル調査

- 各分野の代表的ジャーナルの関連規定の記述を調査
- 国内のものと比較・検討

対象項目

- 二重投稿
- オーサーシップ
- 利益相反
- (盗用)

『学会名鑑』(日本学術会議協力学術研究団体掲載)の分野区分

人文・社会科学

- 言語・文学
- 哲学
- 心理学・教育学
- 社会学
- 史学
- 地域研究
- 法学
- 政治学
- 経済学
- 経営学

生命科学

- 基礎生物学
- 統合生物学
- 農学
- 食料科学
- 基礎医学
- 臨床医学
- 健康・生活科学
- 歯学
- 薬学

理学・工学

- 環境学
- 数理科学
- 物理学
- 地球惑星科学
- 情報学
- 化学
- 総合工学
- 機械工学
- 電気電子工学
- 土木工学・建築学
- 材料工学

1) 学協会の作成した執筆要領・関連文書の収集・分析

- 各分野区分について、会員数が多い学会を中心に（可能であれば）複数学会の具体的に記述された関連文書を収集・整理する

2) 編集委員の研究公正規範に関する認識の調査・分析

- 各分野区分について、学会誌の編集委員経験者を対象に質問紙調査・聞き取り調査を実施する

研究公正規範の共有レベル



1. 規範が明文化されている [explicit consensus]
2. 同学会／分野の編集委員間で見解が一致している [implicit consensus]
3. 同学会／分野の編集委員間で見解が相違している [absence of consensus]

成果物のイメージ

人文・社会科学

- ・ 言語・文学
- ・ 哲学
- ・ 心理学・教育学
- ・ 社会学
- ・ 史学

生命科学

- ・ 基礎生物学
- ・ 統合生物学
- ・ **農学**
- ・ 食料科学
- ・ 基礎医学
- ・ 臨床工学
- ・ 健康科学
- ・ 歯学
- ・ 薬学

理学・工学

- ・ 環境学
- ・ 数理学
- ・ 物理学
- ・ 地球惑星科学
- ・ 情報学

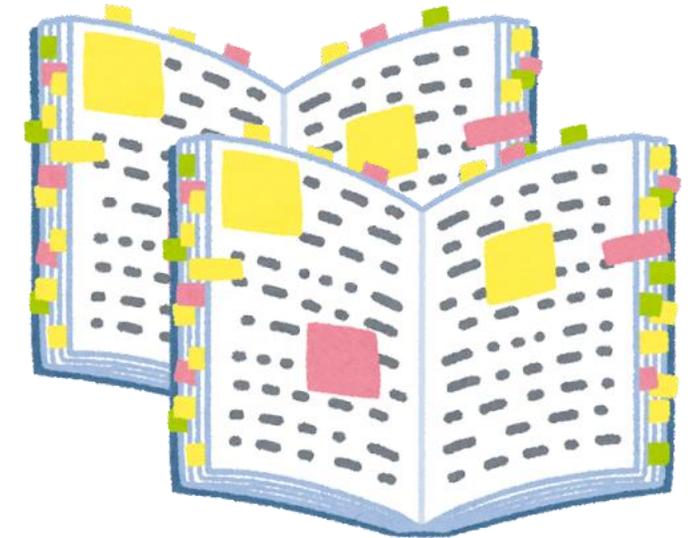
	オーサーシップ	物理学	農学	材料工学
データ分析		◎	◎	○
プレプリント	二重投稿	物理学	農学	材料工学
プロシーディング		◎	○	◎
項目C		×	△	○
項目D		○	△	○
項目E		○	×	○



オーサーシップについては、
国際医学雑誌編集者委員会
(ICMJE) の投稿統一規定の
基準のみを掲載

日本学術会議

『科学研究における健全性の…』
二重投稿に関する規程の一例として、
日本教育工学会の「投稿規定」のみを掲載



農学分野にかかわる研究倫理教材

(教材掲載事例への分野のタグ付け、
既存の事例をもとにアレンジ)

農学分野で問題になった不正事例等

農学分野の学協会による
研究公正規範が明確化された
関連文書

農学分野の研究公正規範の明確な提示